

群馬県議会 リベラル群馬

後藤かつみ

2021年第1回定例会報告

会派代表質問に登壇

新年度予算を斬る!

街頭演説

3700日

発行 群馬県議会 後藤かつみ事務所
住所 高崎市八幡町 800-24
TEL&FAX 027-343-1393
e-mail ccrgoto@af.wakwak.com

<http://www.ccrqgoto.com/>
<http://www.eaglesqgoto.com/>
(スマートフォン用)

大胆な事業見直し、
財政健全化はおおいに評価

単に事業を“削る”のではなく、
“磨く”視点で

公共事業も
生活密着型に転換せよ

“再エネ”“水素”
温室効果ガスゼロへ取り組み加速



検証1 コロナ禍の歳出圧力VS財政健全化

新たな借金発行 ⇒ 76億円減
貯金の確保 ⇒ 24億円

将来へのツケを最小限に抑えつつ、コロナへも備えも怠らない。財政出動の大合唱の中、良く踏ん張りました。



財政健全化
厳しい歳出圧力の中、ギリギリ健全性を維持

事業見直し

「削る」だけでなく、効果を上げるために「磨く」視点

新年度予算では、全国の自治体の多くが軒並み大型予算を組み、過去最高額を計上する自治体も多く見られます。新型コロナに伴う経済対策が口実となり、どうしても財布の紐が緩みがちな状況の中、群馬県はギリギリ健全性を維持できたという評価できます。後藤が注目したのは「借金」と「貯金」。まず、県債には様々な種類があります。が、実質的な「借金」と言えるのは、公共事業等のために発行する県債です。これを次年度予算では、歳出抑制努力により、発行額を前年度比76億円減額することができたことは評価できます。そういった努力により、実質的な「貯金」である財政調整基金を年度当初で26億円確保することができ、新型コロナ等で不測の事態が生じても、県独自の対策を打てる一定の余力を残せたことも評価できます。

県民会館の廃止を打ち出すなど、大胆な合理化路線イメージの山本知事ですが新年度予算に向けては事業を単に「削る」のではなく、より事業の効果を発揮できるように「磨く」視点が見られることは評価できます。例えば、記事で紹介されている事業は、元々は県産木材を利用する住宅に支給されていた補助金ですが、政策効果は未知数でした。これを、省エネ住宅や太陽光パネルの設置など、温室効果ガス削減に資する住宅に限定して支給する制度に変えました。このように、業界等の関係者には有り難い補助金でも、政策効果が不明な事業にメスを入れ、知事の掲げる政策目標に向けて効果を発揮できる制度に「磨き」をかける視点が多く見られました。

「5つのゼロ」達成向け施策

県産材住宅業者に補助

県産材、木材の活用は、省エネ、省コスト、環境にやさしいなど、さまざまなメリットがあります。県産材の活用を促進するため、県産材住宅業者に補助金を交付し、省エネ、省コスト、環境にやさしい住宅の建設を支援します。また、県産材の活用を促進するため、県産材住宅業者に補助金を交付し、省エネ、省コスト、環境にやさしい住宅の建設を支援します。

補助金を単に削るのは苦が無いけど、知事の掲げる「5つのゼロ宣言」の達成に繋げる中身にリニューアルした辺りはなかなか惜しいね。



2月19日 上毛新聞記事抜粋

“生活”&“エコ”公共投資の転換進む

公共事業

「生活密着型」と「公共交通」へ転換

公共事業の基本計画である「国土整備プラン」が山本知事のもとで見直されましたが、その大きな柱は「防災・減災対策」「持続可能なインフラの維持」「公共交通の確保」であり、大沢県政の象徴であった「7つの交通軸」などの大型道路整備中心から、**県民生活に密着した事業への転換**が打ち出されました。

新年度予算では、財政の厳しさから公共事業費総額は減額されたものの、道路などの維持管理予算は堅持し、**地域の身近な要望に応える事業予算を確保**しようとする姿勢は評価できます。

また、公共交通も、記事にある路線バスのICカード導入などの**利便性向上策**に加え、新型コロナ対策としてバス・タクシー内の抗菌コートや高性能空気清浄機の導入支援策が盛り込まれました。

この支援策も、コロナで打撃を受ける交通事業者を単に救済するのではなく、**将来に渡り持続可能な経営ができるための投資に支援**するという視点となっています。

ICカード「ノルベ」導入

県は18日、県内バス事業者6社が2022年春から新たな地域連携ICカード「noibe」を導入すると発表した。乗車券や電子マネーなど「Suica」の機能や定期券、地域独自の割引サービスなどを利用できる。カードを導入するのは上信電鉄、群馬中央バス、日本中央バス、群馬バス、矢野タクシー。県内では、関越交通やジェイアールバス関東などで既にICカードが導入されており、新カードの導入で県内バス路線のICカード普及率は約8割になる。県民の乗入時期や対応路線は今後発表する。



ノルベのデザインキャラクター

県内路線の8割がICカード化するよ。既に導入されている「乗換検索」と「位置情報」がネットで見られるサービスもあるからグッと便利に！

再エネ

「P2G」実現に向け一歩

水素は、二酸化炭素を排出しないエネルギーとして、**温暖化対策の切り札**として期待されています。

同時に、太陽光や風力などの再エネが飛躍的に普及しているドイツなどでは、**余剰電力から水素を造る「P2G (Power to Gas)」の導入が進んでいます**。これにより、**余剰電力を水素に変換することで、蓄電と同様に「貯蔵」でき、再エネの弱点である出力変動の大きさを克服する切り札**としても期待されています。

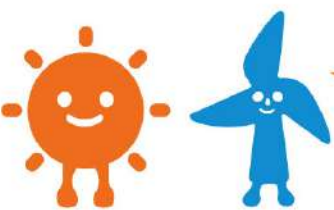
後藤は、山梨県が東電などと共同で、太陽光の電力から水素を製造し、これを工場での熱利用や、商業施設での燃料電池利用の実証実験を調査。改めて、水素の無限の可能性を実感しました。

群馬県も、新年度予算で「**水素エネルギー活用調査研究**」として、**3,300万円を計上**し、本県での「P2G」導入への一歩を踏み出しました。

山本知事の掲げる「**温室効果ガス排出量ゼロ、自立分散型社会**」の実現に向け、夢のある施策と期待されています。



太陽光の電力から水素を製造・活用する実証事業を進める、山梨県企業局の施設を調査



僕たちがもっと活躍できるために、水素は大切な役割を果たすんだね。

地域課題三二報告 豊岡地区 国道406号君が代橋西交差点改良事業が完了

豊岡地区最大の懸案の一つであった国道406号の渋滞対策。区長会や地権者の皆様などの協力により、無事完了しました。



これまでの朝の深刻な渋滞が嘘のように改善！



平成25年に行われた地元説明会の様子